

新年度を迎えて

田中野田子ども会育成会会長 和氣芳夫

この度、本年度の育成会会長を務めさせて頂くことになりました。微力ではありますが、精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。町内の皆様方には、日ごろ子ども会育成会のために、ご協力ご配慮を頂きまことにありがとうございます。

平成8年度の子ども会並びに育成会の役員が、決まりましたのでお知らせします。今後とも子ども会育成会をご理解頂き、ご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

子ども会役員

- 会長 原 志朱弥
副会長 村上 大介 佐藤 舞 山下 絹子
運営委員 植野 貴 乙竹 和哉 高橋 健太
原 裕太 平松 真一 松永 直人
相賀 寛子 岩下 裕美 大倉志帆子
永野久美子 松本 麻里

育成会役員

- 会長 和氣 芳夫 (田中 524)
副会長 香山 寛 中尾 信夫
原 久昭 相賀 望弘
木村 俊彦 高橋 徳人
和氣 茂樹
地区理事 佐藤 尚美(生活指導部) 永野美穂子(交通部)
村上 聖子(交通部)
地区副理事 岩下 明美(生活指導部) 原 詩子(交通部)
会計 松本 悟子
運営委員 相賀 弥生 大倉 良子 原 富士子
平松 和子 松永 礼子 山下 鈴代
和氣 佳子
監査 中尾 信夫

- 連絡協議会役員 相賀 望弘
交通安全母の会 植野栄津子 乙竹 由美子 高橋 圭子
ソフトボール監督 原 久昭 ポートボール監督 香山 寛

新愛育委員決まる

有り難うございました

中尾よし子 和氣 和子 原 笑

どうぞよろしく

中尾 美子 小橋 慶子 原富士子

わが郷土を語る(その28)

中尾 佐之吉

昔の住生活をふりかえって(その1)

前回と前前回では「衣」と「食」について書いたので、今回は「住」について書くことにする。それも、この地方の特色とでもいうことを……。

1) この地方には「イロリ」がなかった。



「ともしび近く衣ぬう母は、春の遊びの楽しさ語る。居並ぶ子どもは指を折りつつ、日数かぞえて喜び勇む。囲炉裏火はとろとろ、そとは吹雪。」は私が小学校で習った唱歌「冬の夜、(昭和40年頃)」の一節である。

このイロリは、明治の半ば頃まで全国の農山村でつかわれ、暖房・炊事・照明などの役割を果たしていたのである。しかし、この地方にはイロリはなかった。

ある書物によると、岡山県南部の平野地域では、かつてイロリがあったかどうか確認がないと書かれている。私たちはこどもの頃、イロリのことを知らずに「冬の夜」の唱歌をうたっていたわけである。

2) イロリのなかったわけは?

寒い冬でも、県北より暖かかったということもあったかもしれないが、第一の理由は燃料であると思われる。当時、この地方の自給の焚きものといえば、稲わらか笹カ瀬川に自生する葦くらいのものであった。(備考付記)山村のようにイロリで燃やす雑木とか木の枝などの燃料が自由に得られるところではなかったのである。

現金収入は少なく、自給自足の経済生活を強いられていたこの地方の農村に松や檜の割木が買えるようになったのは、明治も中期以降でい草の栽培が本格的になってからではなかろうか。(この地方で、丈の長い良質のい草がたくさん作れるようになったのは、日露戦争後、い草栽培にとって欠かせない肥料としての大豆粕が満州から自由に輸入されるようになってからだと推量による。)

備考 この地方での炊事用の燃料は、前述のように稲わらや葦(このあたりではヨシと呼んでいた)であつたが、そのほかに扱殻(脱穀も)がつかわれていた。ただし、この扱殻を燃やすにはカマドの焚き口に特別の装置(ドストル)を必要としたので、扱殻が燃料としてつかわれるようになったのは大正時代からではないかと思われる。

3) イロリのある住生活の特徴

イロリのある無しによる住生活の相違を述べたいのであるが、まずイロリのある家の構造をみてみたい。(私には経験がないので、書物にたよるしかないが)

イ) イロリのある場所

イロリは、表の土間からあがつたすぐの広間とか台所の中央に設けられていた。

ロ) 火の用心には

部屋の中で火を焚くのであるから、火災が一番心配である。そのため木の枠か竹で編んだ棚を梁からイロリの上につるして火の粉が天井にとび移らないようにしていた。またこの棚に濡れた衣類や雪靴を乾かす役割をもたせていた。

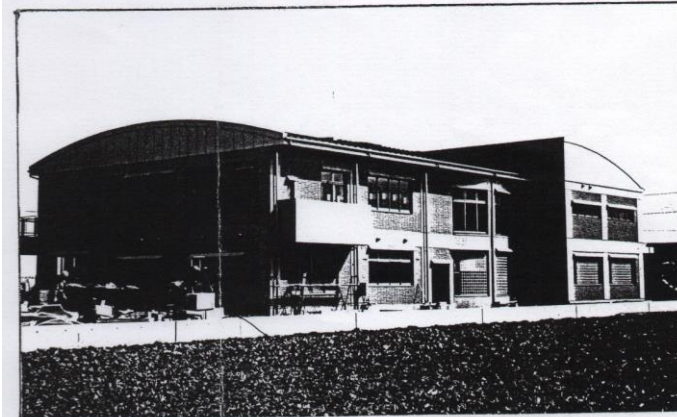
ハ) イロリのある部屋は仕事をする部屋、家族団楽の部屋でもあったイロリのある部屋は、通例食事をする場所であるが、家の中で一番明るく暖かい場所なので、寒い日や雨天のとき、また夜は、主人はここで縄をなうなどの菓仕事をし、主婦は針仕事をする場所となる。また子どもたちとの団楽の場になっていることは「冬の夜」の唱歌のとおりである。

ニ) イロリのある部屋は清潔にならない火をあつかうが煙突はない。そして仕事部屋でもある。よごれないようにしようと思ってもむりである。

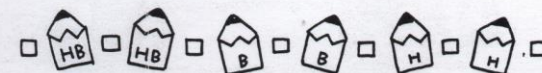
この部屋には、畳でなく蓆(ムシロ)が敷かれていたり、真壁(ゴザ)が敷かれることになる。

おこわり

この次に本論のこの地方の住生活のことを書く筈であつたが、予定のスペースなくなったので次回にゆずらしてもらおう。悪しからず。



会館が待たれる御南西公民館



あとがき

今年も4月がやってきた。進学、就職など新しい人生のスタートだ。親も子も希望に胸をふくらませる一方、一抹の不安を心のどこかに秘めての旅立ち。ピカピカの一年生、この喜びをいつまでも忘れないでね。心から未来に幸あれと祈る。私どももピカピカの一年生に負けずに頑張ろう。